

外国語教育メディア学会 (LET)

関西支部 2025 年度春季研究大会

プログラム



日 時： 2025年5月24日(土) 10:15 ~ 17:10

場 所： 流通科学大学

〒651-2188神戸市西区学園西町3-1

<https://www.umds.ac.jp/about/campus/access/>

主 催： 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部

<https://www.let-kansai.org/>

事務局： 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部事務局

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35

関西大学外国語学部 田村 祐 研究室

E-mail: kansaiet@gmail.com

プログラム

- 9:30-15:00 受付■ 講義棟 VI 2 階カウンター
- 10:15-16:00 賛助会員展示■ 講義棟 VI 2 階
- 10:15-10:30 開会行事■ 6301 教室 (ハイブリッド形式・オンライン参加可)
司会◆ 田村 祐 (事務局・関西大学)
挨拶◆ 名部井 敏代 (支部長・関西大学)
- 10:30-12:00 ワークショップ1■ 6204 教室 (ハイブリッド形式・オンライン参加可)
ことばの学び—絵本の読み聞かせを通して
司会◆ 今村 梨沙 (関西大学)
講師◆ 斉藤 倫子 (関西学院大学) 井狩 幸男 (大阪公立大学) 他
(LET 関西支部早期英語教育研究部会)
- ワークショップ2■ 6205 教室 (ハイブリッド形式・オンライン参加可)
双方向型コミュニケーション活動を実践する対面・オンライン併用
ハイブリッド授業の試み
司会◆ 山岡 浩一 (姫路獨協大学)
講師◆ 野村 和宏 (甲南大学)
- 12:00-13:00 昼食
運営委員会■ 6306 会議室
- 13:00-13:20 総会■ 6301 教室 (ハイブリッド形式)
- 13:30-15:15 研究発表・実践報告・Classroom Tips ① 13:30-14:00 ② 14:05-14:35 ③ 14:45-15:15
第1室 (実践報告・Classroom Tips) ■ 6204 教室
司会◆ 大和 知史 (関西大学)
- ① [実践報告] 生成 AI を活用した英作文指導: 生徒が自律した学習者となるために
上本 善之 (兵庫県立宝塚西高等学校)
- ② キャンセル [CT30] Poe を使い多彩な生成 AI を教育・研究活動に活用する
東 淳一 (Society for Advanced Global Education, LLC)
- ③ [CT30] 大学入試英作文指導に生成 AI を活用する
真島 由朱 (大阪府立桜塚高等学校)

第2室（研究発表）■ 6205 教室

司会◆ 今村 梨沙（関西大学）

① なし

② [研究発表] シャドーイングを取り入れた授業の効果：英語リスニングの楽しさに焦点を当てて

関山 博久（関西学院大学大学院）

③ [研究発表] 生成 AI の API を活用した教育・研究支援ウェブアプリケーションの開発と展望

谷野 圭亮（大阪公立大学工業高等専門学校）

水本 篤（関西大学）

15:30-17:00

基調講演■ 6301 教室（ハイブリット形式・オンライン参加可）

生成 AI 時代の英語評価：新たな学習成果の測り方

司会◆ 菅井 康祐（近畿大学）

講師◆ 萱 忠義（学習院女子大学）

17:00-17:10

閉会行事■ 6301 教室

司会◆ 田村 祐（事務局・関西大学）

挨拶◆ 菅井 康祐（副支部長・近畿大学）

17:30-

懇親会■ RYUKA DINING

司会◆ 山岡 浩一（姫路獨協大学）

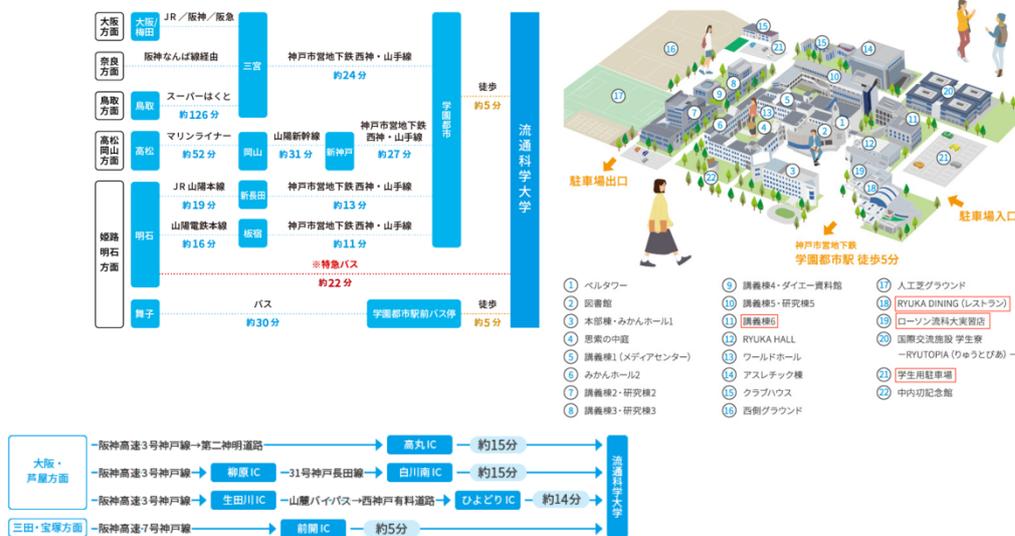
挨拶◆ 山本 勝巳（会場校・流通科学大学）

お知らせ

- 参加者は必ず以下の URL から Peatix にアクセスし、事前に参加申し込みをしてください。
<https://letkansai2025spring.peatix.com/>
- オンライン参加者には、前日までに Zoom のリンクを送信いたします。
- 会場は、流通科学大学です。最寄り駅は神戸市営地下鉄 学園都市駅となります。
- 対面での参加者は、受付にて必ずネームホルダーをお受け取りください。
- 会場では無線 LAN が利用可能です（パスワード認証あり）。
- 当日学内食堂は営業しておりません。学内および近隣のコンビニやショッピングモール（Campus Square）のレストランをご利用ください。
- キャンパス内は全面禁煙です。
- 発熱等、体調のすぐれない方は来場をご遠慮いただきますようお願いいたします。
- 懇親会は、学内にある Ryuka Dining にてケータリングで開催いたします（先着 40 名、5 月 16 日（金）締切）。[参加申し込みフォーム](#)より申込の上当日受付にて参加費（一般 4,500 円、学生 4,000 円）をお支払いください。



会場への交通案内・会場案内図



学内駐車場が利用できます。駐車券が必要な方は当日受付にお申し出ください。

入試に役立つ4技能を鍛える文法・語法演習

Vision Quest Insight

英文法・語法・熟語問題集

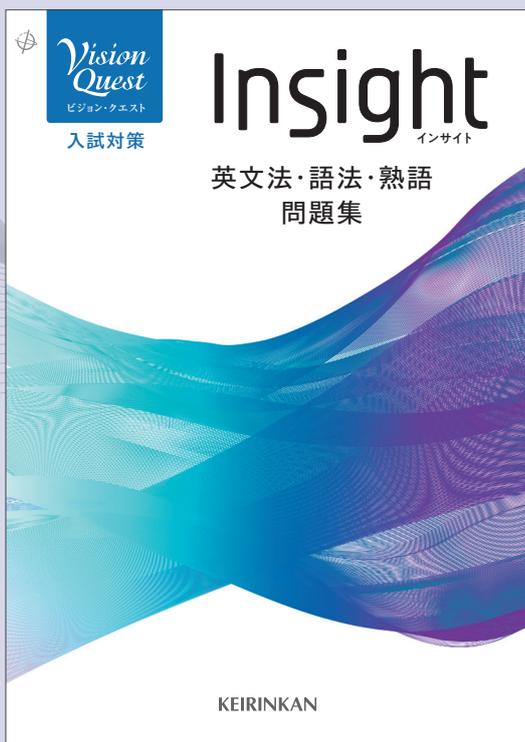
A5版 584頁 3色カラー刷り 定価1,650円(税込)

生徒用(付録)

赤シート

教師用データ

教師用 DVD-ROM
(一括採用の場合、1部ご用意)
KEIRINKAN Portal
(教師用データをダウンロードできるWEBサイト)



Point 1

生徒が興味をもちやすく、
入試に役立つ英文

- 入試や英検で頻出のトピック
(環境問題や時事問題等)
- 自由英作や英検の二次試験で、生徒が発信活動に使える英文
を多数収録しているので、スピーキングやライティング
に即活用が可能! 4技能育成にも役立つ。

Point 2

文法・語法・熟語が定着する
問題形式・演習量

問題形式は「空所補充」「部分英訳」「並び替え」の
3種類で、各文法項目を理解・発信するのに最適な問題
形式をそれぞれ採用!
予備校講師と進学校教員が入試傾向を徹底分析し、
最新の入試で扱われている項目を精選。

Point 3

『Vision Quest 総合英語』
とのリンク

『Vision Quest 総合英語』『Vision Quest 総合英語
Ultimate』のFocus番号を記載し、つまづいた箇所は
すぐに確認可能!『総合英語』からのスムーズな導入で、
2年生の始めから使える「入試対策問題集」。

問題文

+

解説

の見開きで入試に役立つ文法演習が可能

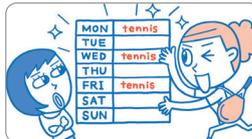


視覚的に
文法を理解できる
コーナーも充実

Visual Image 1 現在形と現在進行形の違い

現在形

現在進行形



Sara **plays** tennis.

サラはテニスをやる。
→「現在を含む広い範囲の時」を表す。

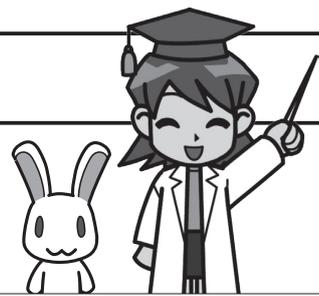


Sara **is playing** tennis now.

サラは今、テニスをしている。
→「その瞬間」をとらえている。

英語 e-Learning システム

ATR CALL BRIX



4技能をバランスよく学習できるカリキュラムで、基礎力を養います。

オススメコース

TOEIC® L&R テスト トレーニングコース

- 2016年5月に改訂された新形式に対応した問題を収録しています。
- TOEIC® テスト形式以外の教材も豊富で、基礎力をつけながらスコアアップを目指せます。

理工系学生のための英語力強化コース

- 書籍のパートにあわせたカリキュラムです。
- 単語や用例文の発音練習もできます。



単語学習 (英日訳)



用例文の発音練習

ATR CALL BRIXは、ATRにおける約40年の研究成果から誕生したe-ラーニングシステムです。



Advanced Telecommunications Research Institute International



株式会社 国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)

電気通信分野における基礎的・独創的研究の一大拠点として、産・学・官の幅広い支援を得て1986年に設立されました。3年後にけいはんな学研都市(京都府)に移って以来、けいはんなの中核研究機関としての役割を果たし、その最先端の研究内容と優れた研究成果により、世界的な評価を受けています。

TOEIC is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS). This product is not endorsed or approved by ETS.

学修空間

FutureClassRoom®

内田洋行が提案する未来の教室

内田洋行は、学校、行政、学生、研究者とともに70年にわたって教室のあるべき姿を追求してきました。

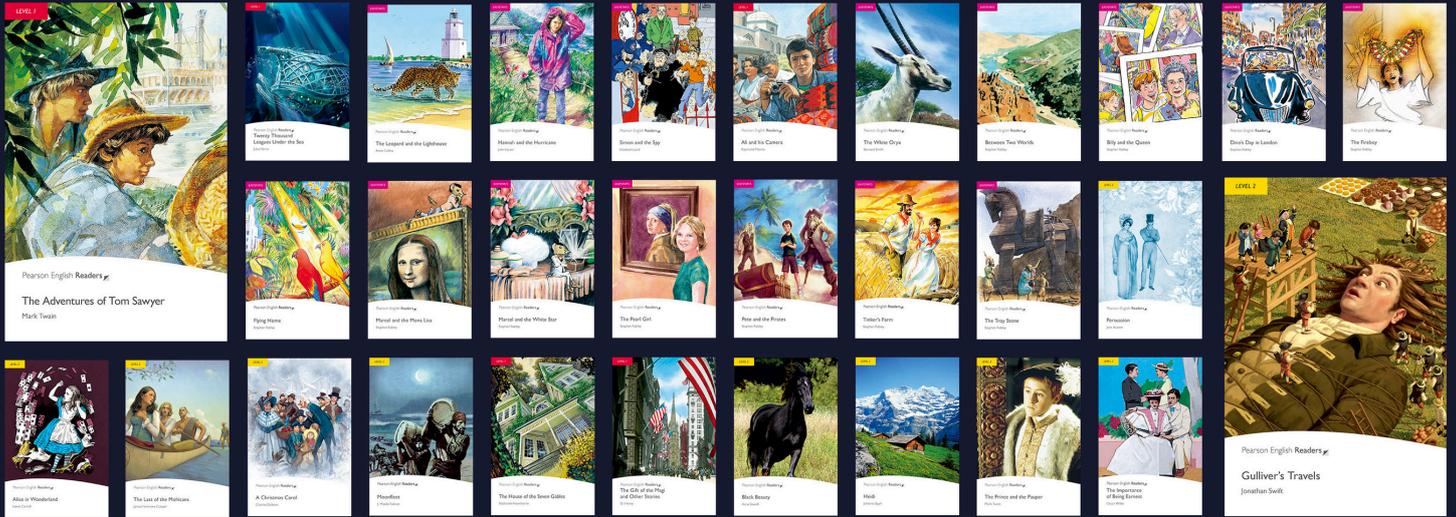
「FutureClassRoom®」は、内田洋行が、学生、研究者の視点でデザインした未来の学修空間です。最先端のICT環境とフレキシブルな教育環境が、学生たちの学習・研究意欲を刺激します。「FutureClassRoom®」では、環境のご提案だけでなく、実際の授業を実践・体験していただくことも可能です。是非、未来の学修空間をご体感ください。



「フューチャークラスルーム®」は、学校関係者や企業・研究機関と一緒に新しい授業スタイルの研究開発・実証実験を行える場所として、新川本社ビル(東京都中央区)と大阪支店(大阪府大阪市)に設置しております。ぜひ、ご来館ください。(ご見学は事前予約制です)

NEW
IN 2025

ポケットに入る図書館



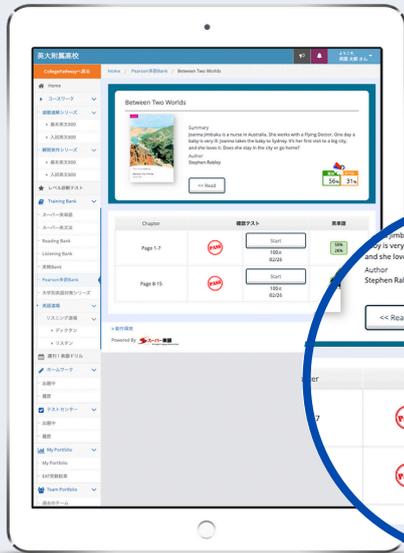
読んだ単語数をカウント。
目指せ100万語！

自分の英語力にあう本を多数用意。

スーパー英語での学習成果を反映。
本選びの参考に。



「読書からテスト、復習まで。シームレスな多読学習」



本に登場した英単語は、スーパー英単語で
すぐに復習！

読後のテストで読解力を可視化。

スマートフォンでもご利用になれます

Pearson 多読Bank

Pearson x **スーパー英語.com**
The English Language Materials Bank

ことばの学び—絵本の読み聞かせを通して

斉藤倫子（関西学院大学）・井狩幸男（大阪公立大学）

小学校英語教育の目的は、単なる語学力の向上にとどまらず、異文化理解や国際的なコミュニケーション能力を育むことにあり、特に小学校段階での教育方法において、コミュニケーションの目的、場面、状況に合わせた言語活動が求められている。このような学習環境を提供する手段として、絵本の読み聞かせが注目されている。絵本は、視覚的な要素とともに物語を伝えるため、言語習得において非常に効果的なツールであり、絵本のストーリーを通じて、意味を類推しながら聞く力が育ち、語彙、表現、用法などを自然に学ぶことができる。

絵本を通じたやり取りにおいて、子どもと話し手の心が同期するプロセスは、言語、感情、認知の各面において重要な影響を与えており、指導者の工夫次第で、子どもの発話を引き出すこともわかっている（萬谷、2009）。これは絵本の読み聞かせが、子どもと大人の間での深い相互作用を通じて、子どもの社会性や認知能力を育む重要な教育活動であることを示している。

脳科学研究から得られた知見を踏まえると、絵本の読み聞かせの際に、子どもたちの脳で起こっている言語処理は、非常に高速かつ複雑であること、並びに、理解と産出が同時並行であるという特徴が挙げられる。さらに、言語の脳内処理には個性があり、パターンは同じでも、内容は異なる点に留意することが肝要である。以上の点を踏まえると、絵本の読み聞かせが子どもの言語習得に与える影響は、非常に大きく、また多様であると推察される。

これらを検証するために、本研究部会のプロジェクトでは、絵本の読み聞かせの際に、読み手と聞き手の間のやり取りが、幼児及び児童のことばの習得にどのような効果が生じるのかを分析した。そして、このやり取りが子どもの英語習得にプラスの影響を与えるのではないかと仮説の下、英語教室に通う幼児及び児童 16 名を対象に、3 人の指導者がそれぞれの教室で絵本の読み聞かせを実施し、活動中の子どもたちの様子をビデオで撮影した。その後すぐ、子どもたちに対して、内容理解の確認のために振り返りを実施し、事後検証のために、1 か月後に同様の手順で、読み聞かせを行った。

絵本の読み聞かせ動画を多角的な観点から分析した結果、主に指導者とのやり取りがあることで、学習者が発話を繰り返しながら自分の中に話の内容や意味を取り込み、自信が持てると笑顔になる、挙手や起立するなどの行動が見られた。また、指導者の側で学習者の既習事項を把握していることで、子どもの発話を待つことができる、別の表現に言い換えることができるなどの点も確認された。さらに、指導者や友だちとのやり取りも動機づけや共感に影響を及ぼす可能性が示唆された。

以上の点を踏まえると、絵本による読み聞かせは、子どもの言語発達や社会的発達の促進に不可欠な要素であると総合的に判断される。本ワークショップでは、プロジェクトで使用した絵本を使い、参加者とともに、体験を通して、学習者への効果的な問いかけについて考える。

参考文献

- 萬谷隆一（2009）. 「小学校英語活動での絵本読み聞かせにおける教師の相互交渉スキルに関する事例研究」『北海道教育大学紀要（教育科学編）』 60(1), 69–80. <https://doi.org/10.32150/00005806>
- 井狩幸男・竹田里香・杉本孝美・石田雅子（2022）. 「インプット処理過程における予測と同期の役割について—自然な英語の定着に向けて—」『LET 関西支部研究集録』 20, 74–98. https://doi.org/10.50924/letkansai.20.0_71

双方向型コミュニケーション活動を実践する 対面・オンライン併用ハイブリッド授業の試み

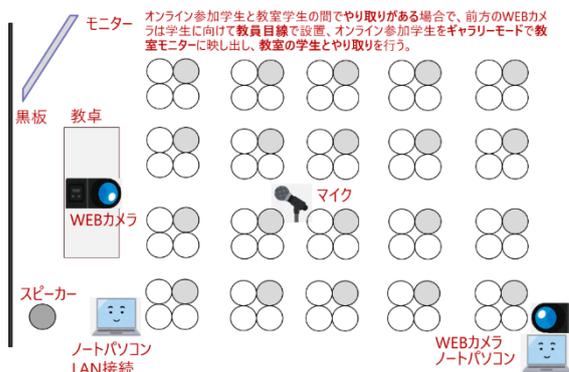
野村 和宏 (甲南大学)

コロナ禍を契機として大学授業においてもオンライン授業の可能性は大いに進化した。こうしたテクノロジーに多いに恩恵を受け一方、充実した学びを得るために克服すべき課題もある。本ワークショップでは対面とオンラインを併用したハイブリッド授業で、スピーチ発表など双方向型のコミュニケーション活動を重視する授業での機器セッティングを考える。

リアルタイムで行なうオンライン授業では、画面を通した教員と学生の対話の機会が無いまま教員からの一方的な講義に終わったり、学生が画面に顔を出さず教員は授業を受ける学生の反応を確かめられなかったりするケースがある。またオンデマンド授業では学生が繰り返して教材を見ることができるメリットがある一方、やはり学生の受講状況のフィードバックを得にくい。

筆者は神戸市外国語大学ではパブリック・スピーチや英語教育法の授業を担当していた。コロナが落ち着いた頃教室での対面授業が可能となった時期に、教室での対面授業を基本としながらも事情があつて教室参加できない学生のために ZOOM ミーティングもセットし、教室にいる学生とオンライン参加学生の間で双方向のスピーキング活動を行なった。

パブリック・スピーチの授業ではオンライン参加している学生が教室にいる学生の反応を確かめながら画面越しに準備したスピーチの発表を行い、教室の学生がそれに対する論評を行った。またオンライン参加学生が教室の学生に対して Topic Master として即席スピーチのテーマを出し、教室の学生がそのテーマについての発表を行った。時にはスピーチセッション全体の司会進行を担当する Leader of the Meeting の役割をもつ学生がオンライン参加し、教室にいる学生に対して指示を出して授業進行を行なったこともある。こうした対話型の授業実践のためにはオンライン参加学生も教室の様子を十分に把握する必要があり、さまざまなセッティングを試した結果、教室の前と後ろに Web カメラをセットして映像を中継することで解決した。また映像と同時に音声を鮮明に送り出すことも重要であった。こうした実践を経て得られたノウハウは、コロナ後も海外大学と連携して COIL 授業を行なったり、オンラインで遠方の講師に講演を依頼したりする際にも教室にいる学生の様子を相手に分かりやすく生き生きと伝えるために有用である。当発表では具体的な授業の取組みを図や授業風景のビデオ、学生の授業評価を用いて報告する。



参考文献

- ・野村和宏 (2022). 「学生の意欲を高める対面、オンライン、ハイブリッド授業 — What, How, and Why」『言語と文化』(26) pp.19-38. 甲南大学国際言語文化センター.

<https://konan-u.repo.nii.ac.jp/records/4203>

- ・野村和宏、山本シャーリ、武野哲哉、唐津麻理子 (2025). 「日米大学間における COIL プロジェクト実践 — グローバル教育の活性化」『甲南大学全学共通教育センター紀要』(第3) pp.145-162.

生成 AI を活用した英作文指導： 生徒が自律した学習者となるために

Teaching English Composition with Generative AI:
Empowering Students to Become Autonomous Learners

上本 善之(兵庫県立宝塚西高等学校)

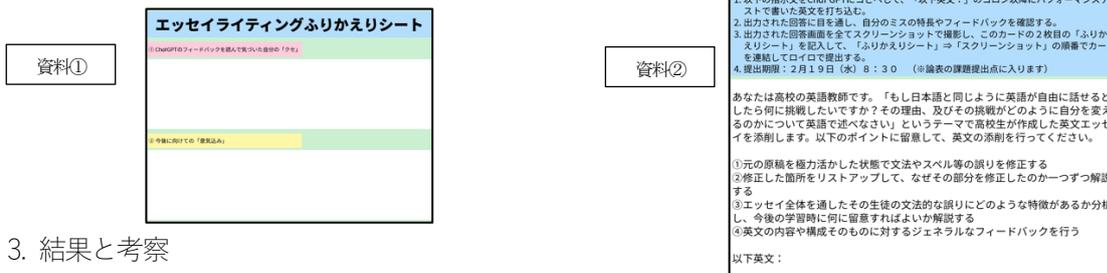
キーワード： Generative AI, Essay writing, Learner Autonomy

1. はじめに

生成 AI を使用した指導は少しずつ広まっているが、同時にその使用方法や評価については賛否両論である。本実践では、生徒が生成 AI を使用しながらもその成果物を適切に評価し、また従来教員が行っていたフィードバックをより効果的かつ効率的に行うことで、生徒の英語力向上と教員の負担削減を同時に成し遂げるための方法論について紹介する。

2. 参加者と手順

参加者は、兵庫県立宝塚西高等学校の高校 1 年生 236 名であった。1 年生の論理表現 I の授業内において、事前に与えたテーマについて英文エッセイライティングのパフォーマンステストを実施し、教員がルーブリックを用いて評価した後、その英作文の添削とフィードバックを生徒自身が生成 AI (ChatGPT 無料版) を使って行い、出力されたフィードバックとそれを受けた反省をロイロノートアプリ(資料①)を用いて回収した。生成 AI に英文添削を依頼する際には、教員の作成したプロンプト(資料②)を使用し、生徒はそのプロンプトの末尾に返却された英作文をそのままタイピングして各自の生成 AI に転載入力する。プロンプトには、「エラーの修正および解説」「エラーの傾向の分析」「内容や構成に関するアドバイス」などを出力する指示が記載されている。



3. 結果と考察

生徒アンケートの結果、「ChatGPT を使った英文添削は役に立ったか?」「ChatGPT のフィードバックは分かりやすかったか?」「ChatGPT を使用することで、自分のエラー (間違い) の傾向を把握できたか?」「今後この課題を継続していくことで、英文エッセイを書く力が向上していくと思うか?」「この課題を通じて文法やスペルミスに対する理解が深まったか?」などの質問に、9 割以上の生徒が肯定的に回答した。これは、本指導方法の継続が生徒の英語力向上に寄与する可能性を示唆している。また、「自分でエッセイを準備し、ChatGPT を使って修正箇所を分析することは、自律した学びに役立ったか? (自律した学び=自分で考え、改善する学びの姿勢)」の問いには、7 割以上の生徒が当てはまると回答した。生徒が自律した学習者となれば、特に英文添削にかかる教員の負担も減らすことができる。したがって、本指導方法は「生徒の英語力向上」および「教員の負担軽減」の両方に寄与すると考えられる。

(キャンセル)Poe を使い多彩な生成 AI を教育・研究活動に活用する

Utilizing a variety of generative AIs for research and teaching activities via Poe

東 淳一 (Society for Advanced Global Education, LLC)

Azuma, Junichi (Society for Advanced Global Education, LLC)

キーワード : 生成 AI, Poe, 授業, 研究

Poe は ChatGPT など OpenAI 社の生成 AI 製品を含む、生成 AI のポータルサイトです。いわば「生成 AI のデパート」で、Quora が展開するサービスです。Claude-3.7-Sonnet、GPT-4o、o3-mini、Gemini-2.0-Flash、Llama-3.1-405B-FW-128k、DALL-E-3、StableDiffusionXL、ElevenLabs など、多数の生成 AI を Poe のサービスの中で使うことができます。1 日の利用限度はありますが、基本的に無料で使用できます。教材の作成、練習問題や試験問題の作成、英作文課題の自動採点、音声教材の生成など日々の教育活動でも活用できますし、海外論文の翻訳や概略生成、自分が書いた英文の校正と高度な校閲、さらには Python などのプログラミング言語の coding などにも活用でき便利です。発表では、Poe を通じたさまざまな生成 AI の使い方を紹介させていただき、さらに自分専用のボットの作り方についても解説します。

大学入試英作文指導に生成 AI を活用する

Using Generative AI to Teach English Composition for University Entrance Exams

真島 由朱(大阪府立桜塚高等学校)

キーワード：生成 AI, 英作文, Google Workspace for Education

和文英訳や英作文が出題される大学入試を受験する生徒に対して、その指導に ChatGPT を活用した。Google Workspace for Education ツールと生成 AI 使用を組み合わせ、生徒の英作文でのエラーを Google Spreadsheet 上で記録、データとして残し、ChatGPT での分析などを通して活用する手段を模索した。本発表ではその手順や結果、さらなる利活用に向けての考察について共有したい。

シャドーイングを取り入れた授業の効果: 英語リスニングの楽しさに 焦点を当てて

Effects of Shadowing-Based Lessons:
Focusing on EFL Listening Enjoyment

関山 博久(関西学院大学 大学院生)
Sekiyama, Hirohisa (Graduate School, Kwansai Gakuin University)

キーワード: シャドーイング, リスニング, 英語リスニングの楽しさ

1. はじめに

シャドーイングを取り入れた授業は、英語リスニングの不安を有意に軽減させることが明らかにされている (Niimoto, 2021)。しかし、シャドーイングを取り入れた授業が英語リスニングの楽しさに与える効果に焦点を当てた研究は、管見の限りない。重回帰分析によれば、外国語の楽しさは英語聴解力を予測できる (Zhu & Aslan, 2023)。したがって、英語リスニングの楽しさは、英語リスニング指導において考慮すべき要素であると思われる。そこで本研究は、シャドーイングを取り入れた授業が英語リスニングの楽しさに与える効果を、質問紙を用いて量的に探索した。

2. 方法

参加者は、質問紙の回答に同意した大学生 26 名である。シャドーイングを取り入れた半期の授業期間前後に、英語リスニングの楽しさを測定する質問紙 (Wang & MacIntyre, 2021) に 5 段階で回答した。シャドーイングは、シャドーイングを行う各文章の学習後、すなわち練習問題の解答や解説後に実施された。Hamada (2014) によれば、各文章の学習前よりも学習後にシャドーイングを行う方が、英語聴解力を有意に向上させるからである。シャドーイングは、各文章につき 4 回繰り返された。6 項目で構成される質問紙における合計値の平均を、繰り返しのある t 検定で分析した。

3. 結果と考察

繰り返しのある t 検定の結果、事前と事後の得点間に有意な向上がみられた。この結果から、シャドーイングを取り入れた授業は、英語リスニングの楽しさの向上に効果的であることが示唆された。

参考文献

- Hamada, Y. (2014). The effectiveness of pre- and post-shadowing in improving listening comprehension skills. *The Language Teacher*, 38(1), 3–10. <https://doi.org/10.37546/JALTTLT38.1-1>
- Niimoto, S. (2021). Shadowing to alleviate listening anxiety and facilitate the development of bottom-up skills. *Studies in English Language Teaching*, 44, 101–109. https://doi.org/10.18989/selt.44.0_101
- Wang, L., & MacIntyre, P. (2021). Second language listening comprehension: The role of anxiety and enjoyment in listening metacognitive awareness. *Studies in Second Language Learning and Teaching*, 11(4), 491–515. <http://dx.doi.org/10.14746/ssl.2021.11.4.2>
- Zhu, L., & Aslan, E. (2023). Anxiety vs. enjoyment in the Chinese EFL context: Which predicts listening comprehension better? *TESL-EJ*, 27(2), 1–21. <https://doi.org/10.55593/ej.27106a3>

生成 AI の API を活用した教育・研究支援ウェブアプリケーションの 開発と展望

谷野 圭亮(大阪公立大学工業高等専門学校)

水本 篤(関西大学)

キーワード： 生成 AI, API, ウェブアプリケーション, 教材開発

1. はじめに

API (Application Programming Interface) とは、異なるソフトウェア間で機能やデータを連携させるための仕組みであり、近年、生成 AI の API を活用した教育用アプリケーションが大きく注目されている。英語教育分野では、立命館大学がいち早く生成 AI の API を組み込んだ学習アプリケーション Transable (<https://transable.net/>) を無償で公開している (山中, 2024)。本発表では、発表者たちがこれまでに作成してきた教育・研究用の Web アプリケーションのうち、生成 AI の API を利用したものをいくつか紹介し、その活用方法や今後の展望を述べる。

2. 開発した教育・研究支援 Web アプリケーション

谷野は Teacher tool (<https://sites.google.com/view/tanino-teachertool/>) として、Web ページ上で整序問題や、穴埋め問題などの生成 AI なしで動いているものや、ライティングフィードバック作成や英文書き換え、語彙リスト作成など、裏で生成 AI の API と連携して稼働するツールを公開している。

水本は、Mizumoto et al. (2024) で生成 AI の一種である GPT を活用し、ライティングにおけるエラー検出と評価指標の算出を自動化する試みを提案している。ただ、これまではウェブアプリケーションの形では公開されていなかったため、新たに Groq API を用いてツールを開発し、2024 年 11 月より公開している (<https://cafindex.pythonanywhere.com/>)。本ツールによる自動評価と 2 名の評定者によるエラー分析の結果は、相関係数が 0.94 と高く、人間による評価とほぼ同等の精度であることが確認された。また、語彙学習やライティング指導に役立つツールとして LexiTracker (<https://mizumot.com/vocabtracker.html>) を開発しており、その具体的な活用方法も提案する。

3. 今後の展望

今後は、生成 AI の性能向上に伴い、個別の学習支援や、教師と AI が協働するハイブリッド型指導モデルの開発が期待される。また、言語教師が求めるツールは、単に学習や指導をサポートするだけでなく、多忙な業務の負担を軽減し、効率化を図るものも含まれる。発表では、こうした視点も踏まえながら、生成 AI の教育利用の未来について幅広く議論したい。

参考文献

Mizumoto, A., Shintani, N., Sasaki, M., & Teng, M. F. (2024). Testing the viability of ChatGPT as a companion in L2 writing accuracy assessment. *Research Methods in Applied Linguistics*, 3(2), 100116. <https://doi.org/10.1016/j.rmal.2024.100116>

山中 司 (編) (2024). 「AI・機械翻訳と英語学習 教育実践から見えてきた未来」朝日出版社

生成 AI 時代の英語評価: 新たな学習成果の測り方

萱 忠義 (学習院女子大学)

近年、生成 AI 技術の急速な発展により、英語教育の現場にも大きな変化が生じつつある。学習者が生成 AI を活用して課題を作成・提出することは一般化しつつあり、教育現場に新たな課題を突きつけている。その中でも、生成 AI によって作成された成果物を教員がいかに見極め、適切に評価すべきかという問題は、喫緊の課題となっている。従来のルーブリックを用いた成果物中心の評価法では、生成 AI の使用の有無を適切に識別することができず、学習者自身の英語運用能力を公平・的確に測ることが困難となっている (Kofinas et al., 2025)。

本講演では、まず、生成 AI を積極的に活用する学習者と、生成 AI への対応が遅れている教員との間に生じるギャップについて、アンケート調査 (丸山・萱, 2025) の結果をもとに現状を整理する。さらに、生成 AI を活用した英語学習の実態を紹介し、成果物における生成 AI 利用の影響、ならびに、生成 AI の利用を禁止することが現実的には困難であるという点についても考察する。あわせて、生成 AI の活用スキルを英語力の一部と捉える視点の必要性についても言及する。

次に、成果物重視型のルーブリックによる評価の限界について考察する。学習者からの提出物のみを評価対象とする従来型のルーブリックでは、生成 AI による介入の有無を判断できず、学習者自身の能力を適切に評価することが困難である。こうした背景を踏まえ、成果物のみならず、学習プロセスを重視する新たな評価方法の必要性を提起する。

具体的には、「プロセス評価」と「ポートフォリオ評価」を中心に議論を展開する (Khlaif et al., 2025)。プロセス評価においては、アイデア出し、アウトライン作成、ドラフト作成、生成 AI 活用による修正、フィードバックの反映といった一連の学習過程全体を対象とし、最終成果物に至るまでの学習の質を評価する。一方、ポートフォリオ評価においては、複数回にわたる提出物の内容変化、生成 AI 活用の過程を記録・蓄積することにより、学習者の成長のプロセスを可視化し、総合的に学習者を評価する手法を紹介する。

さらに、生成 AI の活用を前提とした新たなルーブリックの方向性についても提案する。すなわち、AI をどのように活用したか、生成 AI 利用前後でどのような変化が見られたか、生成 AI のフィードバックをいかに活用したか、といった観点を評価軸に組み込む必要性についても考察する。

最後に、生成 AI 時代において教員に求められる意識改革の必要性を論じる。生成 AI の台頭に伴い、教員は従来の英語教育を実践するという役割にとどまらず、今後は、生成 AI を適切に活用しながら英語教育環境を設計・運用するという役割も担うことが求められている。本講演では、生成 AI と共存するこれからの英語教育のあり方を展望しつつ、評価における課題と未来像について参加者とともに考える機会としたい。

引用文献

- 丸山 信人・萱 忠義 (2025). 生成 AI の教育利用 —— 大学教員への実態調査 —— 学習院女子大学紀要, 27, 313–349.
- Khlaif, Z. N., Alkouk, W. A., Salama, N., & Abu Eideh, B. (2025). Redesigning assessments for AI-enhanced learning: A framework for educators in the generative AI era. *Education Sciences*, 15(2), 174. <https://doi.org/10.3390/educsci15020174>
- Kofinas, A. K., Tsay, C. H., & Pike, D. (2025). The impact of generative AI on academic integrity of authentic assessments within a higher education context. *British Journal of Educational Technology*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1111/bjet.13585>